

2026年3月1日

在日米海軍司令官殿

3.1ゲート前抗議行動参加者一同

非核市民宣言運動・ヨコスカ

ヨコスカ平和船団

横須賀市本町1-9 三協ビル 3階

米国とイスラエルによるイラン攻撃に抗議する申し入れ

2月28日、米国とイスラエル軍はイランに対し軍事攻撃を行いました。報道ではイラン国内の首都含む5都市が攻撃、南部では小学校への爆撃で子どもを含め約60名が犠牲になったと報じられています。私たちはこの事態を深く憂慮し、憤りと共に抗議の意を表明します。

昨年6月にイスラエルがイランを攻撃、続いて米国はイランの核施設数か所を攻撃しました。さらに今回の攻撃は米国とイランの核をめぐる協議の最中に行われ、米国は外交対話を一方的に放棄し、「力による平和」にまたもや大きく踏み出しました。さらにトランプ大統領は、イラン国内にむけて「体制転覆を」と呼び掛けています。前回のイラン攻撃同様、国連安保理の決議もなく、国際連合憲章第2条4項「すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇または武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない」に明白に反する軍事攻撃です。

また、イスラエルはストックホルム平和研究所等の調査によりかねてから核兵器保有が指摘されてきました。にもかかわらずNPT/核不拡散条約に加盟していないことが指摘されています。それは中東地域の平和を脅かし緊張を高めてきた要因のひとつです。「戦争被爆」の体験を持つ日本社会からもこのことについて強く抗議します。

さらに2023年10月7日以降、イスラエルのガザ攻撃は国際司法裁判所も「ジェノサイドの蓋然性が高い」とし、昨年国連の特別委員会の報告書もジェノサイドであると結語づけています。さらに国際法違反のヨルダン川西岸地区への国際法違反の入植活動も加速しています。このようなイスラエルと共同で軍事行動を行う貴国に対し、私たちは満身の怒りをもって抗議します。

また、米軍は今回の攻撃に際し中東全域に軍事力を集中させ、事前にイスラエルのハイファ港には原子力空母ジェラルド・R・フォードが入港しています。イスラエルが米軍の中東支配の出撃の拠点になることは、日本が東アジア地域への出撃の拠点として使用されることに近似しています。

神奈川県には多くの在日米軍基地が存在し、この米海軍横須賀基地も原子力空母の「唯一」の海外母港です。2003年のイラク戦争時はこの横須賀から第七艦隊の艦船が直接出撃し、ペルシャ湾の奥深くに陣取り、首都バクダッドへむけた先制攻撃を行いました。冷戦以降、これまで中東地域の不安定化の一翼を担ってきたのがまさにこの基地です。その歴史ゆえに私たちは貴国の国際法を無視し、国際社会を混乱に陥れる「力による平和」に寄与することを強く拒否します。

ご存じのように日本国憲法は「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する」とし「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有すること」を強く確認しています。今回の貴国とイスラエルによるイランへの軍事攻撃に対し以下要請します。

1. イスラエルとのイランへの攻撃を即刻中止するよう米国政府に伝えること。
2. イランとの核協議を再開し、外交による努力を尽くすよう米国政府に伝えること。
3. 米海軍として国際法違反の攻撃を行わないように、米国防総省に伝えること。

以上